

## 平成 30 年度 智頭病院職員研修：BLS 研修

平成 30 年度職員研修として BLS 研修を実施しました。全職員対象に毎年取り組んでいますが、全員参加まで至っていませんでした。

今年度は、医療安全研修会として、講師は、東部広域行政管理組合消防局・救急救命士さんに、病院実習の一環として受けて頂き実現しました。運営は、例年通り、看護部教育委員会で実施。アドバイザーとして院長の参加があり、プレテストでの事前学習、知識の確認がありました。

研修目標は以下と設定しました。

大目標：効果的な胸骨圧迫を絶え間なく実施できることができる。

AED を安全かつ適切に使用できることができる。

個別目標：心肺蘇生法の基礎知識を理解する。病院内での患者様の急変や屋外で傷病者に遭遇した際に、病院施設で働く職員として迅速かつ適切な一時救命処置が実践できるよう、知識技術を習得する。

研修日 延 18 日間に 163 名の参加がありました。その様子の一部を写真で紹介します。





心マッサージと AED を使用しての研修を交替で行い、看護師の場合は、バッグバルブマスクを使用してのマスク換気が加わりました。

\*プレテスト 146 を 回収し、事前回答では、3 問～4 問の間違が多くみられました。間違いの多かったのは、以下 5 項目でした。

- 心停止の判断は（正常な）呼吸が無いことで行う。
- 圧迫の深さは（5～6 c m）
- テンポは一分間に（100 から 120 回）
- 中断は（10 秒）以内
- 止めるタイミングは、医師、救急隊到着  
あるいは（正常）な呼吸の出現時のみ

後日、参加者全員にプレテストの解説・回答を配布しました。

\*参加者よりの声（アンケートより）

- 久しぶりなので、忘れていた所もあり振り返りになった。定期的に受けたい。



- ・いろいろ聞けて今後につなげていける。
- ・細かい注意点なども教えていただき勉強になった。
- ・救命の第1歩なのでみんなが出来学ぶことが必要だと感じた。
- ・質問でき良かった。
- ・毎年参加していても、ガイドラインが変わっているので、今後も参加して知識を新たにできるようにしていきたい。
- ・ポイントがしぼってあり、分かり易かった。
- ・死戦期呼吸をビデオで見て分かり易かった。
- ・胸骨圧迫は大変（重労働）でした。
- ・ペースメーカー、気道確保、回復体位のことを学べてよかった。
- ・BLS研修にしては時間が短いと思います。
- ・今後、院外で活かせる機会に出会ったら、自ら率先して行います。

＊講師の救急救命士さんよりの言葉

- ・全員参加できることが良く、毎年続けましょう。

＊運営側より

今回、東部広域行政管理組合消防局のご協力で、BLS研修が目標であった全員参加が達成でき、今後も継続できる道筋ができました。

今回講師をして頂いた救急救命士の国森直哉様 中原康貴様 渡邊宏様 田中譲様  
ありがとうございました。

国民健康保険智頭病院 看護部

[www2.town.chizu.tottori.jp/Ns/](http://www2.town.chizu.tottori.jp/Ns/)

※ BLS とは、Basic Life Support の省略形で、「一次救命処置」のことです。

呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するため、特殊な器具や医薬品を用いずに行う救命処置であり、①胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法(CPR)、そして②AEDの使用を主な内容とします。

付) AED は automated external defibrillator の省略形で、「自動体外式除細動器」です。

心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

2004年7月より医療従事者ではない一般市民でも使用できるようになり、病院や診療所、救急車はもちろんのこと、空港、駅、スポーツクラブ、学校、公共施設、企業等人が多く集まるところを中心に設置されています。

AEDは、操作方法を音声でガイドしてくれるため、簡単に使用することができます。

[参照：ウィキペディア]